

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071400240		
法人名	医療法人		
事業所名(ユニット名)	グループホームガーデンライフ		
所在地	和歌山県海南市船尾265-6		
自己評価作成日	令和3年5月31日	評価結果市町村受理日	令和3年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3071400240-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年6月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『のんびり・ゆっくり・O(まあるく)ゆこう』をモットーに住み慣れた地域の中で、心穏やかに笑顔の絶えない事業所を目指しています。コロナ対策にて、外部との接触機会が少なくなっています。重度化が進む中、入居者様の残存能力を維持出来るように、個別ケアに力を入れています。母体が医療法人であり病院や老人保健施設が併設しており24時間、医療との連携が確保されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共有空間に対面式のキッチンが設置され、職員が交代で食事作りを行うことができるようになっており、入居者の要望や体調を考慮した献立を作成のうえ食事を楽しんでもらう工夫がなされている。コロナ対策により外出がままならない中でも、屋上の庭園にて野菜や花を栽培し、風や緑の匂いを感じてリフレッシュする時間を入居者と職員で持ったり、併設の施設との行き来により、交流を楽しむなど出来る限り配慮に努めている。入居者一人ひとりに寄り添い、言葉や表情・仕草を記録し全職員で共有し支援につなげている。法人内に併設されている病院により、入居者への24時間対応が確保され、月に一度の医師による往診や週一回の訪問看護が、入居者・職員の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の他に『のんびり・ゆっくり・〇(まあるく)ゆこう』を独自に掲げている。入居者様には住み慣れた地域の中で穏やかに安心して笑顔の絶えない日々を送って頂けるように努めている。	職員によって作成された、心に素直に入る言葉で理念をより深く共有し、日常生活の中で入居者一人ひとりのペースに合わせ、輪のように仲良くなれるように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアの先生や毎年、漆器祭りへの作品の出展、地域学生の体験学習の受け入れなど行っていたが、コロナ対策の為、昨年より行っていない。	コロナ対策により、思うように外出できない中でも、事業所屋上の菜園の手入れに職員の家族が来所し、入居者と交流を図ったり、法人内の老人保健施設の入居者や職員と交流を行っている。また、地域ケア会議にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『認知症になっても安心して暮らせる町づくり』を目指し『認知症サポーター養成講座』を行ったりしていたが、コロナ対策で行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催していたが、コロナで昨年より行えていない。市には予定表としてミーティングや、研修で行った内容をまとめ郵送で送っている。	コロナ禍により開催はできていないが、運営推進会議に準じて、入居者情報・行事予定・介護報酬改定の説明状況などの取り組み状況を市の担当者に送り、再開時に繋げるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が入居されているので、市のくらし課の方が面談に来られたり、情報を提供、地域包括支援センターとは、入居待機人数の情報を提供をしている。	市の担当者や地域包括支援センターの方とは、訪問時や電話等で法改正対応や入居者の件で相談する中で協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	老健側の扉を開けており、入居者様・他部署のスタッフや老健に入居されている方の訪問など自由に出入り出来る様にしている。やもを得ず施錠する時、施錠が身体拘束である事を職員は認識している。	リモートによる外部研修を職員全員で受講し、身体拘束防止に取り組んでいる。プライバシー保護のために居室に鍵がついているが、夜間トイレ後の部屋の間違い防止で掛ける入居者についても、昼間は解除している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様1人1人を尊重したケアを目指しています。特に言葉遣いでは、『スピーチロック』にならないようにまた、今はマスクをしていて顔の半分が見えないので『フェイスロック』にならないよう目元に気を付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員に研修に参加できる機会があるがコロナ対策で参加出来ていない。今後はリモートなどでの参加を行い職員に伝達していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	開設当初と変わらず文章と口頭で説明させて頂いている。また、介護報酬改定時には文章と口頭で説明し確認して頂き新たに契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口・担当を設けている。家族様の来所時に、利用者様の日頃の様子を報告したり、コミュニケーションを積極的に行い、意見や要望を出して頂ける雰囲気作りや環境作りに努めています。	月に一度、支払い時の家族来訪時に、玄関先に置いてある机と椅子にて、入居者の様子が書かれた書類や写真を用いて説明を行い、意見や要望を聞き出している。出された意見等は、職員で共有し、業務に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員ミーティングを行っている。朝の申し送りの時に情報の共有や意見交換、入居者様の気になる事を話し合う時もある。ふさんかの職員には伝達ノートを見てもらい見たらサインするようにしている。	上司や職員同士のコミュニケーションが取りやすい環境であり、日々のケアや入居者について気付いた事をお互いに意見が出しやすく、その人に合ったレクリエーションも行われるなど、業務に活かす取組みがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート、準職員が多い中、資格習得や業績・人事考課により、時給値上げや準職員や正職員へと昇格などの制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今はコロナ対策で講習や研修に参加出来ていないが2ヶ月に1度リモート研修を行っている。内容などは、今自分達になにが必要なのか職員達で吟味している。見終わるとレポートの提出をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議など参加している。同業者とは、悩みや分からないことがあれば連絡し合うなど交流や情報交換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人様の自宅、サービス事業所や入院先など直接お会いして、本人様の思いや考えなど聞くようにしている。また、事前にホームに足を運んで頂いたり、こちらからも訪問し不安にならないように、雰囲気や職員の顔を覚えて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも入居には事業所の見学や面談を行なっている。入居後は家族様には近況報告や要望などお聞きしケアに生かせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様・担当のケアマネジャーなどから話を聞き内容を見極め、必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度化の入居者様が多くなる中、一緒に出来る事が少なくなってきた。一緒にする事がすべてではなく、ただ傍にいてくれる。声を掛けてくれた、手を握ってくれることでの安心感、この人の声や顔を見ると安心する関係性を今後も築いていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お支払いなどで月1回は来所して下さる機会を設けている。必要に応じて電話での報告や相談を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多いため、出来るだけ関わりが持てるように努めているが、お互い高齢な事もあり、難しくなっている。また、このコロナの事もあり面会など出来ていない。	コロナ禍以前は、職員と近くの市場やスーパーマーケットに食材やおやつを買いに行ったり、回転寿司へ外食をしたりする入居者もいたが、現在は、入居者の安全を第一と考え自粛している状況である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の邪魔をしないように見守っているが、耳が遠くて聞こえにくく、話が噛み合わない時がある。その時は職員が間に入り対応している。また、1人になりたい時には、本人様の意向を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に転居された方は、様子を見にその施設に出向いたり、電話などでの様子伺いなどを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、入居後も日々の暮らしの中で思いを聴くように努めている。自分から思いを言えない時には、職員がその人の思いを考へたり、家族様に意向をお聞きして本人様本位なのかどうか見極める様に努めている。	入居者との関わりの中で発せられた言葉や気付いた事を記載し、月1回のミーティング時において共有を図り支援につなげている。丸型分割可動式テーブルを購入したことで入居者とのふれあいが広がった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後のアセスメントにより、本人様、家族様、担当ケアマネや事業所などに情報を得ている。入居後も本人様や家族様にお聞きして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時の顔色であったり、仕草や話す言葉の内容などから、体調の変化に気付き、入居者様の持っている力が発揮出来るようにまた、現状維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度、家族様を初めケアマネ、関連スタッフと今後の課題や家族様の要望をお聞きしてモニタリングを行っていたが、コロナで家族様の出席が今は無理なので、ケアマネ・事業所スタッフとモニタリングを行い、後日家族様に報告・説明サインを頂いている。	介護計画の見直しは、職員による日々の記録を基に、ケアマネージャー・職員・必要時はかかりつけ医・訪問看護師等の関係者にも意見を求めている。また、見直された計画書には、入居者の家族に報告するとともに出された意見を反映することとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個々の生活記録に記入。介護計画の評価は各担当者が行っている。3ヶ月に1度のモニタリングを始め、各担当者からの発信によりカンファレンスを行う時もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している病院の付き添いや、他の病院(整形外科・歯科・眼科など)などの付き添いも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対策でボランティアの先生方の受け入れや地域の体験学習の受け入れができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設しているので24時間連携が確保されている。入居者様の殆どの方の主治医が併設されている病院の医師である。1ヶ月に1度訪問診察を受けている。家族様の要望があれば他の病院への紹介や診察の同行などさせて頂いている。	法人内の医師の往診が1ヶ月に一度行われているが、馴染みのかかりつけ医を希望しても、家族と職員が同行している。週一度訪問看護師の訪問もあり、歯科は希望により、訪問診療が受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している病院を始め、老健・透析室の看護師との協力体制が築けている。また週に1度、透析室の看護師による訪問看護がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室があり、病院との連携が確保されている。情報交換や共有が出来ている為、入退院時の支援がスムーズ行えている。また、他病院との交流もあり、空き状況など情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入退時に『看取りの指針』について説明させて頂いている。初めにあらかじめかぞくさまの意向をお聞きしているが、重度化や急変時などその都度、変化がある時には家族様と再度話し合い、意向をお聞きしている。また、状態により医師に相談、話し合いに入っている。	入居時に、入居者・家族へ重度化した場合の事業所の出来る介護や看取りの範囲、法人内の病院や老人保健施設の説明を行い希望を聞いている。状態が重度化した場合、医師の説明により、家族の意見に添った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	近年、災害が多くなってきている。入居者様の変化にも瞬時に対応出来るように、訓練の必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2、法人全体の消防訓練があり、参加していたが、コロナの影響で中止になっている。今後、卓上訓練やリモート研修に参加予定にしている。	水、カイロ、携帯ガスコンロ、お粥、缶詰めなどの備蓄を身近に置いている。各居室や玄関、トイレ、お風呂などの各所に電池式のランタンを備え停電時に対応している。	年に一度は、入居者も含めて実際の避難訓練を体験し、具体的な避難マニュアルを作成して、職員一人ひとりがシュミレーションできるようになることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重度化が進む中、言葉の理解が難しくなっているが、その人に合わせた声のトーンやゆっくりと分かりやすい言葉掛けを心掛けている。	入居者一人ひとりに合わせて、聞き取りやすく、心を込めた言葉かけを心がけ、乱暴な言葉遣い等に気付いた時には、職員間で注意し合うようにしている。また、入居者の排泄パターンを把握し、トイレや居室に誘導しプライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	二者択一で出来るだけ入居者様の意思で決めてもらうように支援している。また、その方の立場に立ち職員同士で話しあったり家族様の協力を得ながら決める時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れがあるが、その日1日を楽しみ過ごして頂くために、その時の状態に合わせた対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選べる方には、選んだ服を着て頂いている。服装が合わない時には、さりげなく声掛け、一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スーパーのチラシを見ながら、献立や何が食べたいかなどさり気なく聞き食卓へ。食事を楽しんでもらいたいので、入居者様の嚥下状態に合わせて、普通食・あら刻み・刻み・ミキサー食と提供。また、糖腎食の方の食事は病院の栄養士さんに指導を受け提供。透析室の看護師にも相談・アドバイスを頂く時もある。	入居者の重度化に伴い、職員が交代で食事作りをしているが、入居者と献立を考えたり、仕出し料理を注文したり、誕生日には、好みの献立にしたり、季節の行事に合わせた献立作成を行うなど、入居者と職員が楽しみながら食事を行うようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表で管理している。食事やおやつ以外にも飲みたいときに飲んで頂いたり、入浴後や10時頃にも提供、水分補給に努めている。食欲不振には、本人様に食べたい物をお聞きして『食事』にとらわれず食べたい物を食べて頂いたり、家族様に持って行って頂いたり、少しでも食べて頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて出来る方には、声掛けや見守りを行い、介助の方には職員が行っている。週2回、洗浄剤で義歯を洗浄している。噛み合わせが合わない時には、訪問歯科医に連絡し治療をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で個々の排泄パターンを把握、自己にて行かれる方にはさりげなく様子伺いし、困っている時には声掛けを、夜間、PTトイレを使用されている方も日中はトイレを使用介助をさせて頂いている。	入居者各々の排泄を記録してパターンを把握するとともに、その時々の様子を見ながら、トイレや居室に誘導し、ポータブルトイレも利用するなどして自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然に排便をして頂きたくないので、冷たい牛乳や蜂蜜湯、ヨーグルト、水分をたくさん取ってように提供したり、食物繊維の多い食べ物を摂取出来る様に食事に取り入れる工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の好きな時間に入って頂きたくのですが、重度の方が多くなり曜日を決めて入って頂いている。軽度の方には声掛け、見守りを行い、入って頂いている。	ほとんどの入居者が週に2回、午前中に入浴を行っている状況であるが、毎日の入浴にも対応は可能である。無理強いすることなく、時間や日を改めて支援に努めている。季節の菖蒲湯や入浴剤を利用して楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	メリハリのある生活を送れるように、ある程度の目安はありますが、起きたい時に起きて頂き、寝たい時に寝て頂いている。入居者様の体調を見て休む事を勧める事もある。照明の明るさや布団の調整などにも気配り、寒いときには湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理している。内容や副作用の説明書は誰でもすぐに見れる場所にあり、確認出来る様にしている。また、訪問診察時には、入居者様の体調や様子を報告。医師に投薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知機能の低下や重度化になり難しくなっているが、その人の得意だった事や好きだった事が1つでも出来る様に職員がサポートしながら楽しんで頂ける様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、天気のいい日に近くのドラッグストアに買い物に出掛けていたが、コロナで行けていない。気分転換を兼ねて屋上へ、日向ぼっこや、洗濯干し、野菜の収穫をしている。	コロナ禍のため入居者の安全第一を考え、外出は控えているが、屋上の菜園に出掛け、風や緑を感じたり、野菜を収穫したり、職員と会話を楽しんでいる。また、法人内の施設に出掛けて、入居者や職員と会話し交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	『お金』を持っているだけで安心される方が多いですが、『紛失』することもあります。家族様には話しをして理解と承諾を頂いている。、お小遣い程度の金額を持って頂いていたが、コロナで外出できないので今は、使えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年2回、年賀状や暑中見舞いなど家族様やボランティアの先生方宛てに送らせて頂いている。電話は希望があれば事務所の電話を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時々、リビングのテーブルの配置換えや、席替えなど行っている。又、その時々々の季節を感じてもらいたいので、雛祭りや五月の節句、七夕飾りやクリスマスの飾り付けをしている。各居室の表札の所には、月々の飾り付けを行い五感を刺激するように努めている	事業所内には、入居者と職員の共同作業による、折り紙作品が程よく掲げられている。入居者に合わせた手すりや各所にソファが置かれ自由にくつろぐことができる。エアコンによる室温保存、空気清浄機を用いて、室内の管理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には椅子やソファを置き、好きな所で休んで頂いている。一人になりたい時や洗濯物を畳んだりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使用していた物を依頼するが、余り無いようで、予め事業所のある筆筒など使用して頂いている。ベッドの高さやタンスの位置などは、本人様の動きやすい様に配置や調整を行っている。	洗面台、収納、防火カーテンなどの必要な物は備えられているが、入居者の希望で馴染みのものを持ち込むこともある。居室はリビング側の窓が広く人の気配が感じられ、入居者の安心につながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札・トイレには張り紙をして分かってもらえるように努めている。		